

第7章 教 育

第1節 教育委員会

1 教育委員会

委員会は、定例会を12回、臨時会を1回招集し、議案件数は19件であった。

2 教育大綱・教育基本構想

令和2年12月に新たな「沼津市教育大綱」を策定し、誇り高い沼津を創造する「貴き志を持つ人」の育成を進めている。

大綱策定を受け、本市の教育の方向性を明確にし、教育施策を総合的に進めていくための指針となる「沼津市教育基本構想」を令和3年3月に策定し、「人間力を磨く教育」と「地域総がかりで取り組む教育」を一体的に推進している。

また、構想に示した理念や方向性の具現化を図るため、構想と併せて策定した「沼津市教育基本構想実施計画」に基づき、各事業を展開している。

3 総合教育会議

総合教育会議は、平成27年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により設置され、市長と教育委員会で構成し、教育大綱の策定や「教育を行うための諸条件の整備その他地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」等について協議・調整を行う。

本年度は、次の100年を見据えて、「貴き志を持つ人づくりとまちづくり」をテーマとした会議を、令和6年1月に1回開催した。

4 学校規模・学校配置適正化推進事業

教育の環境や質の更なる充実を図るため、「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」を平成29年度に策定し、その後、令和2年12月に改正して取り組みを進めている。

本年度は、基本方針策定後の環境変化を踏まえ、有識者や関係者等で構成する「沼津市学校規模・学校配置の適正化検討委員会」において、これまでの成果や課題を検証し、適正規模化の困難地域における教育の質の維持・充実に向けた方策等を示した追録（資料集）を、令和6年3月に策定した。

また、第二、浮島及び大平の各中学校区において、誰でも参加可能な地域住民説明会を開催

した後、有識者、保護者、地域自治会、学校の代表者で構成する「学校の未来を考える会」を設置し、適正化に向けた基本的な考え方や学校の現状等を説明して意見交換を行った。

5 中学校部活動改革推進事業

令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を公表し、中学校部活動を地域移行する方向性が示されたことを受け、本市においても、具体的な対応が求められることとなった。

本年度は、関係者等で構成した沼津市部活動改革検討協議会を設置し、5回の協議を経て「沼津市部活動地域移行取組方針（案）」を作成し、パブリック・コメントを実施した。また4人の部活動コーディネーターを配置し、学校やスポーツ団体との調整のほか、5事例の実証事業を実施した。

第2節 学校の運営・管理

5月1日現在における市立の学校・幼稚園数、学級数、教職員数（兼務者除く）、児童・生徒・園児数（認定こども園は除く）は次のとおりであった。

区 分	学校・幼稚園数	学 級 数	教 職 員 数	児童・生徒・園児数
小 学 校	23 校	311 学級	627 人	7,372 人
中 学 校	18	164	418	4,276
高 等 学 校	1	15	61	600
幼 稚 園	1 園	3	6	16

1 小 学 校

原東小学校自動火災報知設備更新工事のほか、各小学校の営繕工事等を実施した。また、要保護及び準要保護家庭の児童の保護者に対して就学援助費を支給し、特別支援学級児童の保護者に対して特別支援教育就学奨励費を支給した。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	児 童 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
5	311 ^{学級}	7,372 ^人	1,814,915 ^{千円}	5,835,738 ^円	246,190 ^円
4	314	7,577	1,798,590	5,727,993	237,375

(2) 経常費の児童1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
5	45,015	170,091	20,535	10,549	246,190
4	45,479	168,441	15,502	7,953	237,375

(3) 要保護及び準要保護児童の就学援助費

区 分	児 童 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	1,002 ^人	11,946,811 ^円
修 学 旅 行 費	126	3,243,458
通 学 費		
新入学児童学用品費等	109	5,698,912
学 校 給 食 費	822	38,711,356
医 療 費		
5 年 度	2,059	59,600,537
4 年 度	2,083	41,060,429

※新入学児童学用品費等は令和6年度入学者分を含む

(4) 特別支援学級児童の特別支援教育就学奨励費

区 分	児 童 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	102 人	401,739 円
修 学 旅 行 費	10	88,690
通 学 費	28	584,330
新入学児童学用品費等	12	270,735
学 校 給 食 費	86	2,078,213
5 年 度	238	3,423,707
4 年 度	198	2,116,360

2 中 学 校

第三中学校空調設備改修工事のほか、各中学校の営繕工事等を実施した。また、要保護及び準要保護家庭の生徒の保護者に対して就学援助費を支給し、特別支援学級生徒の保護者に対して特別支援教育就学奨励費を支給した。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	生 徒 数	決 算 額	1 学級当たりの 金 額	1 人当たりの金額
5	164 学級	4,276 人	1,143,614 千円	6,973,255 円	267,449 円
4	166	4,395	1,160,508	6,991,014	264,052

(2) 経常費の生徒1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
5	43,369	168,526	37,329	18,225	267,449
4	41,737	174,706	33,592	14,017	264,052

(3) 要保護及び準要保護生徒の就学援助費

区 分	生 徒 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	814 人	15,463,322 円
修 学 旅 行 費	207	11,637,786
通 学 費		
新入学生徒学用品費等	282	8,886,000
学 校 給 食 費	580	31,547,558
医 療 費		
5 年 度	1,883	67,534,666
4 年 度	1,717	50,698,248

※新入学生徒学用品費等は令和6年度入学者分を含む

(4) 特別支援学級生徒の特別支援教育就学奨励費

区 分	生 徒 数	金 額
学用品購入費・校外活動費等	65 人	360,075 円
修 学 旅 行 費	11	315,032
通 学 費	6	74,035
新入学生徒学用品費等	9	271,174
学 校 給 食 費	43	1,207,004
5 年 度	134	2,227,320
4 年 度	154	1,967,771

3 高等学校

中高一貫教育の利点を生かし、6年間を通じた教育の充実に努めた。また、普通教室棟外壁改修工事等を実施した。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	生 徒 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
5	15 ^{学級}	600 ^人	637,787 ^{千円}	42,519,133 ^円	1,062,978 ^円
4	15	605	563,906	37,593,733	932,076

(2) 経常費の生徒1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
5	788,365	116,747	156,680	1,186	1,062,978
4	763,720	134,754	31,887	1,715	932,076

4 幼 稚 園

心豊かで思いやりのある園児の育成に努めた。

(1) 経常費の状況

年 度	学 級 数	園 児 数	決 算 額	1学級当たりの 金 額	1人当たりの金額
5	3 ^{学級}	16 ^人	48,308 ^{千円}	16,102,637 ^円	3,019,244 ^円
4	3	20	60,648	20,216,022	3,032,403

(2) 経常費の園児1人当たりの状況

(単位 円)

年 度	人 件 費	物 件 費	維持補修費	そ の 他	計
5	2,630,304	349,491	38,844	605	3,019,244
4	2,726,379	293,445	12,045	534	3,032,403

第3節 学校教育

1 「チーム学校」実現事業

各学校が、地域性や学校の独自性を生かした特色ある教育活動を通して中期計画を達成するために、児童生徒支援員や図書館支援員など必要な支援員を配置するとともに、各学校が行う地域交流の推進と外部人材の活用を図る事業を支援することを目的に、小学校23校、中学校18校の各学校で行われた事業に対し交付金を交付した。

また、全中学校区をコミュニティ・スクール地区とし、地域総がかりでの学校運営に取り組んだ。

2 言語教育による表現力・読解力育成事業

国の承認を受けた、「読解の時間」と「英語の時間」からなる特別な教育課程「言語科」の授業を中心に、言葉を用いて人と積極的に関わる態度や論理的な思考力、表現力が高まる言語教育の推進及び読書活動の充実による読書力、読解力の向上を図った。

また、子どもたちが英語や異文化に親しみながら、英語によるコミュニケーションへの自信や興味、関心、意欲を高めていくことを目的として、小・中学校（中等部を除く）にALT（外国語指導助手）を配置したほか、中学校全学年を対象に生徒とALTが1対1で、1人1台端末を經由したリスニング・スピーキングを行う、市独自のパフォーマンステストを実施した。

3 中高一貫教育

沼津市立沼津高等学校・中等部は、中高一貫教育校として6年間の計画的、継続的な教育を通し、生徒個々の自己実現を図ることを目標に、生徒の学力向上や個性を伸ばす教育を活発に展開した。

また、本市唯一の市立高等学校、中高一貫校として、市全域をコミュニティとしてとらえ、学校運営の改善や地域と連携した教育活動（キャリア教育や探究学習）を推進していくため、学校運営協議会を設置した。

4 情報教育

小・中学校の情報機器の更新等を行うとともに、国が進めるGIGAスクール構想実現に必要な教職員のICTスキル向上のため、情報教育コーディネーターが1人1台端末や大型提示

装置などのICT機器を活用した授業づくりを支援する学校訪問を行った。

そのほか、沼津市立小中高等学校ネットワーク協議会によるICT機器の活用とデジタル教材活用のための研究を行うなど、ICTの活用を通じた教育の質の向上に取り組んだ。

5 教職員の人事管理・研修

(1) 人 事

学校や地域の実態及び教育課題に基づいた学校づくりや、信頼に応える教育の実現を目指す組織づくりのため、年度末に210人（小学校124人、中学校86人）の人事異動の内申を行った。

(2) 健 康 管 理

教職員の疾病の早期発見・予防指導のために、定期健康診断、指定年齢健診などを行うとともに、心の健康増進を図るため、小・中学校の教職員を対象に「ストレスチェック」を実施した。

また、高ストレス者には専門医との面談を行う体制を整えることで、教職員の疾病予防に努めた。

(3) 研 修

教職員研修センターが進める研修会及び個別訪問支援により、小・中学校に勤務する教職員の資質向上を図った。

(4) 教科指導研究

小・中学校の教職員から選任した教科等ごとのチームで教科指導研究を推進し、年度末に研究の成果を教職員ポータル上に公開し、職員間で情報共有を図った。

各教科等の指導法や授業づくりの在り方等について研究・提案をし、9年間の系統性を踏まえた教科等指導力の向上を図った。

6 児童生徒の教育・健康管理

児童生徒の創意工夫、想像力の育成を図るため、小・中学校美術展を学校ごと開催した。

児童生徒をとりまく環境の変化に対応するため、教育委員会が作成した性に関する指導の手引「こころとからだの教育ガイダンス～よりよい生き方・豊かな人間関係を目指して～」をもとに、各学校で性教育を行った。

児童生徒の体力づくりを進めるため、新体カテスト（4月～10月）、中学校体育大会（6月～7月）など各種の体育行事を実施した。

健康管理については、学校医、学校歯科医、学校薬剤師を委嘱し、児童生徒の疾病の予防指導、治療の奨励を行うとともに、結核検診、尿検査、心臓疾患の検査及び生活習慣病予防検診を実施した。

7 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置

児童生徒が心の悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心にゆとりをもって安心して学校生活を送れるようにするために、全小・中学校にスクールカウンセラーを配置した。

また、学校生活や生活環境等に悩みを抱える児童生徒及び保護者を支援するため、スクールソーシャルワーカー4人を配置した。

8 学校給食

学校給食を学校教育の一環としてとらえ、児童生徒の健康増進と望ましい食習慣の形成に努めた。

学校給食費の徴収・管理や地場産物の活用を含めた給食食材の調達を行うほか、学校給食衛生管理基準に基づく検査、関係職員の資質向上に向けた研修会を実施するなど、安全安心な学校給食の運営に取り組んだ。

9 特別支援教育

心身に障がいのある幼児児童生徒に対し、就学支援委員会の適正な就学支援を実施し、知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、通級指導教室において、障がいの種類、程度により個に応じたきめ細かな指導を行うとともに、医療的ケアが必要な児童等の学校生活を支援した。

また、臨床心理士等を含む専門家チームが小・中学校を巡回し、教職員や保護者の相談に応じるなどして、支援の充実を図った。

10 幼児教育

市内の幼稚園・保育園・認定こども園の連携を高め、相互理解の促進、連携の充実を図るとともに、保育の質や保育士の資質の向上を目的として、「沼津市幼児教育研究協議会」の活動を支援した。

また、「一定の所得未満の世帯」及び「第3子以降の世帯」の3歳から5歳児までの子どもの副食費について、本市独自の軽減施策として、国の基準を上回る補助等を実施した。

このほか、私立幼稚園の教職員の資質向上を図るため、4園に補助し、幼児教育の振興支援

を行った。

11 育英奨学金

沼津市育英条例に基づき、奨学生選考委員会を開催して、新たに10人を選考した。その結果、1人月額1万円の奨学金を37人の大学生に交付して勉学の奨励に努めた。

12 児童生徒の安全指導

小・中学校では、学級活動などの時間を利用して、通学路の確認や自転車の乗り方などの交通マナー教育を行い、安全指導の徹底を図った。

また、地域や関係機関との連携を図り、児童生徒の安全確保に努めた。

沼津市子供の移動経路安全推進連絡協議会において、安全対策を専門とする有識者から助言を得ながら、関係機関と連携して通学路の安全対策を講じた。

13 隣接校選択制度

小・中学校入学時及び転入・転居の際に、居住地のある通学区域の学校以外に、隣接する学校も選択できる隣接校選択制度は、小学校入学児童1,083人のうち80人、中学校入学生徒1,271人のうち36人が利用した。

14 小中一貫教育

全小・中学校（中等部を除く）を「併設型小学校・中学校」とし、既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま「義務教育9年間で子どもを育てる」ことに重点を置く小中一貫教育を推進した。義務教育9年間の系統性を確保した教育課程の編成・実施や、小中合同の会議・研修、中学校区単位での地域連携、小中乗り入れ授業等の教育活動に取り組んだ。

第4節 社会教育

1 社会教育委員会

教育委員会の委嘱により、社会教育に関する調査・研究・検討や諮問に対する答申、意見具申などを行う、10人の委員からなる諮問機関であり、本年7月に教育委員会から諮問された「親の学びを支える持続可能な取組について」への答申に向けて調査や検討を重ねるとともに、各種研修会にも参加した。

2 生涯学習

市民の学習に対する意欲を支え、学習の場を提供するとともに、生涯学習を基幹とした社会教育活動を推進した。

(1) 生涯学習の推進

「生涯学習情報コーナー」（市立図書館内に設置）において、生涯学習についての各種情報を提供した。

ア 学習情報の提供

さまざまな学習情報を広く市民に提供するため、生涯学習情報誌として「沼津まなぶくん」を年1回1,200部、「さんさんだより」を偶数月400部発行し、市内各連合自治会、地区センター等に配布した。

イ 生涯学習推進イベントの開催

市民の生涯学習活動の成果を発表する場を提供するとともに、生涯学習の啓発と普及を図るため、「第32回さんさん学習フェスティバル」を開催した。

参加団体 52団体・個人 来場者数 1,411人

(2) 地域における生涯学習の推進

コミュニティ単位に設置している「生涯学習地域推進員」と連携を図りながら、地域における学習活動を推進した。

ア 地域学習講師の派遣

各地域の団体やグループの学習活動を支援するため、その学習に合った講師や指導者を派遣し、地域学習を支援した（派遣回数11回）。

イ 出前講座

市民の学習ニーズに応えるため、市職員を講師として派遣する出前講座を開催し、学習

機会の拡大を図った。

講座数	74講座	開催数	83回
		受講者数	5,566人

ウ まちの識者

特技や知識を持っている方々を「まちの識者（地域学習指導者）」として人材登録し、市民からの学習指導者紹介の要請に応じた。

登録者	延べ101人	紹介件数	36件
		受講者数	1,047人

エ イングリッシュデビュー事業

英語の習得には乳幼児期から英語に慣れ親しむことが重要であることから、英語に触れるきっかけづくりとして、0～3歳児とその保護者を対象とした英語教室を開催した。

開催数	17回	受講者数	延べ431人（197組）
-----	-----	------	--------------

また、4歳児から小学校低学年児童とその保護者を対象に、親子で英語を使ってコミュニケーションを図るプログラムを実施した。

オ 地域学校協働本部

地域総がかりで子どもたちの学びや成長を支える協働活動を推進するため、新たに9中学校区（第一、第二、第四、愛鷹、大平、長井崎、原、今沢、戸田）に地域学校協働本部を設置し、コミュニティ・スクールとの連携を図った。

なお、本年度に全17中学校区への地域学校協働本部の設置が完了した。

3 成人教育

(1) 市民大学

「豊かな未来をひらく」をメインテーマとして、価値観が多様化する現代社会の中で、市民の生涯学習活動を支援することを目的として、講師を招き、広い視野と新たな視点を提供した。

	日 程	テ ー マ ・ 講 師	出席者数 (人)
1	7.7	人と野球の未来づくり 株式会社斎藤佑樹 代表取締役 斎藤 佑樹	362
2	7.23	戦国と現代をつなぐ～徳川と静岡～ 静岡大学名誉教授 小和田哲男	192
3	8.4	現代日本語の言語変化～やさしい日本語をめざして～ 日本大学文理学部 准教授 金 愛蘭	147
4	9.2	顔の魅力とは？～認知心理学の視点から～ 静岡英和学院大学 学長・教授 永山ルツ子	151
5	9.9	清水の舞台から 清水寺 貫主 森 清範	295
6	9.17	五百年の伝統話芸・講談～沼津を歩いて講談作り！？ 講談師 田辺 鶴遊	147
7	10.8	読むこと、生きること～わたしの本棚をめぐる～ 女優・作家・歌手 中江 有里	208
8	10.18	性の多様性とは～性別に違和感を持つ子ども達～ 浜松 TG (トランスジェンダー) 研究会 代表 鈴木 げん	105
9	10.28	宇宙医学最前線：「そうだ。宇宙へ行こう！」 元NASA上級研究員・東邦大学医学部客員教授 三井 石根	125
			延べ 1,732

(2) 高齢者教育

生涯学習の一環として、高齢者が心豊かに明るく健康な生活を送るとともに、仲間と語り合い、生きがいを求める場として、65歳以上の市民を対象とした高齢者学級を開設した。

開設学級 万年青大学5学級

寿大学16学級（愛鷹、原、浮島、日枝、大岡、内浦、橘西浦、香南、我入道、
第三中、大平、金岡、片浜東部、片浜西部、今沢、門池）

期 間 4月～令和6年3月

学級生数 907人 学習回数 各大学とも月1回

また、学習のほかクラブ活動として、体力づくり、ダンス、詩吟、コーラス、俳句などを大学ごとに自主的に行った。

(3) 家庭教育

ア 家庭教育講座

幼児期から思春期までの子どもの心身の発達や親の望ましいあり方等について学ぶ自信がもてる子育て講座等を開催した。

開催数 10回 受講者数 延べ298人

イ 家庭教育講座支援事業

すべての教育の原点である家庭教育力向上を目的として開催される、家庭教育に関する学習会へ講師を派遣した。

派遣回数 6回

4 青少年対策

(1) 青少年問題協議会

青少年対策にかかわりのある機関・団体及び行政の代表13人で構成されている青少年問題協議会を年2回開催し、青少年の社会参画について意見交換を行った。

(2) 青少年を健やかに育てる会

青少年健全育成を主眼に、地域組織として18地区に設置されている「青少年を健やかに育てる会」は、育成部・補導部により積極的な地域ぐるみの活動を行い、青少年の健全育成と非行・被害防止に努めた。

(3) 青少年健全育成啓発事業

市民が青少年問題に対する関心を深め、青少年の健全育成を推進するために、「青少年を健やかに育てる会」及びその他の関係機関と緊密な連携を保ちながら青少年健全育成啓発事業を行った。

11月の「子供・若者育成支援推進強調月間」には、沼津駅周辺での街頭キャンペーンを実施し、さらに広報活動を通して青少年健全育成の啓発に努めた。

また、児童生徒が通学路や遊び場等で危険に遭遇した時、すぐに助けを求められる場所として「こどもかけこみ110番の家」（令和6年3月31日現在2,216か所）を設置した。

(4) 青少年育成推進員制度

各地区の「青少年を健やかに育てる会」から推薦された321人で構成され、「青少年を健やかに育てる会」の中核的な推進役として、地域の青少年の育成や地区行事等で活動した。

(5) 青年教育推進事業

青年が個人の教養や技術を身につけるとともに、地域での社会貢献の意識を高めることを

目的として、教養講座や交流活動を実施した。

(6) 二十歳の集い

市内17会場で地域における手づくりの式典を開催した。

また、責任ある大人としての自覚と市政への関心を喚起するため、二十歳の議会を開催した。19人の若者が、市政についての質問や、「わたしにとっての沼津の宝」をテーマに一言発言を行った。

(7) わたしの主張大会

市内の中学生が家庭、学校、郷土（地域）、友人、将来のこと、あるいは、自分の体験や日頃考えていることを発表する場として第42回大会を開催し、市内19中学校から校内審査により選ばれた19人が発表した。

(8) 高校生しゃべり場 in んまづ

各高校の代表生徒に日頃感じていることや意見を自由に発言する場を提供することで、高校生の社会参加のきっかけを作るとともに、生徒自身の社会に対する意識の高揚を図り青少年の健全育成を促すことを目的として、ディスカッション方式で開催した。第11回となる本年度は、12人の高校生が、「市制100周年 これからの100年に向けて～未来につなぐ『うみりょく』会議 いま、高校生にできること～」をテーマに活発な意見交換を行った。

(9) 青少年体験学習推進事業

幅広い分野での体験の機会を設け、参加者の自ら学び考える力や様々な物、事への興味・関心・意欲の向上を図ることを目的に、学校や家庭ではできない体験活動を実施した。

開催数 3回 参加者数 88人

(10) 青年団体の育成及び青少年育成団体との連携

沼津市子ども会育成連絡協議会等と常に緊密な連携を保ちながら青少年の健全育成を図った。

(11) 子どもの居場所づくり推進事業

行政、学校、放課後児童クラブ、児童福祉、社会教育の関係者や地域住民の代表などの委員で構成される「放課後子ども総合プラン運営委員会」を設置し、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との関連や活動場所、人材確保など本市における「新・放課後子ども総合プラン」等について協議をし、「放課後子ども教室」を市内5か所の小学校にて実施した。

5 青少年教育センター

(1) 補 導

ア 中央補導

繁華街での補導を強化するため、地区補導委員代表者及び警察署等と連携を保ちながら計画的な街頭補導を実施した。

イ 地区補導

市内全域の補導強化を図るため、18地区の「青少年を健やかに育てる会」から推薦された少年補導委員により、それぞれの地区の実情に合った補導を実施した。

街頭補導実施状況

実施回数	補導委員従事延べ人数	声かけ、注意、指導 した少年	事後指導（家庭・学校・ 他機関への連絡）
回 535	人 2,783	人 2,214	人

街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区補導）

（単位 人）

区分		学職別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計
		飲	酒						
喫	煙							0	
薬	物乱用							0	
夜	間はいかい		6	18	2			26	
不	良交友							0	
怠	学・怠業							0	
ゲ	ームセンター入場	21	98	420			2	541	
パ	チンコ店入場							0	
カ	ラオケ店入場			4				4	
自	転車の暴走行為			1				1	
自	転車の二人乗り			2				2	
自	転車の無灯火	1	5	19	6	5		36	
危	険な遊び		3					3	
そ	の他		2	3		1	1	7	
計		22	114	467	8	6	3	620	
事後指導	家庭・学校・職場へ連絡							0	
	他機関へ連絡							0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	
愛の声かけ運動		562	315	653	50	14		1,594	

※少年は20歳未満の者

(2) 環境浄化活動

有害図書の販売場所、ゲームセンター、カラオケ店及び公園・空き地等、青少年のたまり場や遊び場を見回ること、良好な環境の整備に努めた。

(3) 広報活動

非行・被害防止及び健全育成の啓発を図るため、青少年教育センターの機関紙「たより」の発行、関係機関や団体との情報交換を行った。

(4) 教育相談

面接相談と電話相談の各利点を生かして、児童生徒及び保護者の相談に応じた。教育相談の実績は、面接相談152件（延べ2,004回）、電話相談818件であった。

ア 相談指導学級

不登校の児童生徒の学校復帰や社会的自立を図るため、通級による指導を行った。

イ 面接相談

非行、不登校、発達・子育て、進路・適性、対人関係等の課題について、職員や臨床心理士、言語聴覚士により面接相談を通じて相談者自身による課題解決を支援した。また、本人や保護者との面接のほか、必要に応じて学校等への訪問を実施した。

相談内容・対象者別内訳

(単位 件)

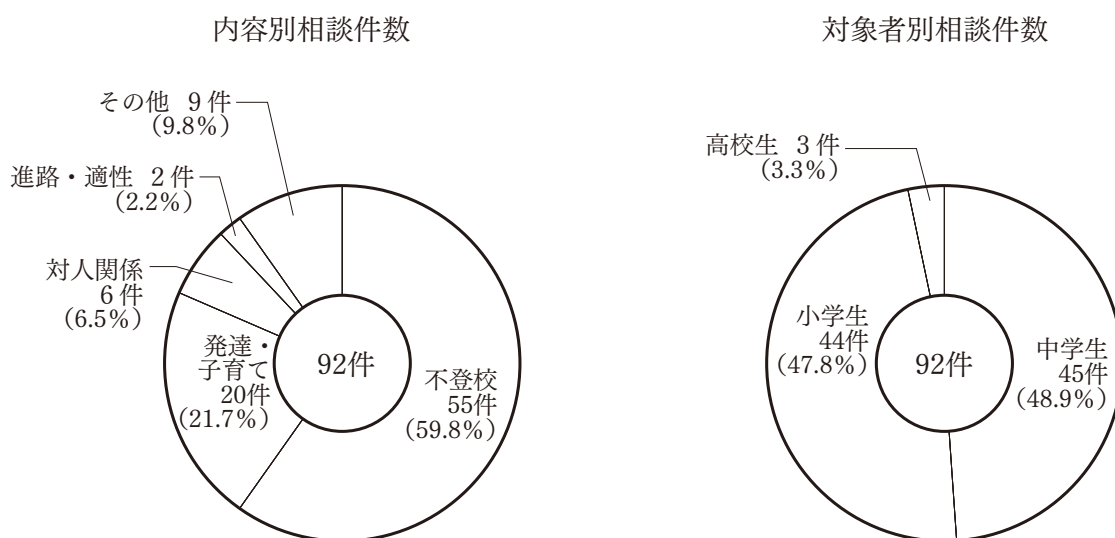
対象者	内容	非 行	不 登 校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その 他	計
幼 児								0
	新 規							0
小 学 生			39	22		2	6	69
	新 規		21	16		1	6	44
中 学 生			55	11	2	5	4	77
	新 規		33	3	2	4	3	45
高 校 生			3	1		2		6
	新 規		1	1		1		3
そ の 他								0
	新 規							0
本 年 度		0	97	34	2	9	10	152
	新 規	0	55	20	2	6	9	92

※対象者のその他……大学（短大）生・専門学校生・有職少年・無職少年など

※上段は相談件数

※下段は新規相談で上段の内数

[新規相談受理状況]



ウ 相談指導学級における教育相談教員研修

学校における複雑多様化した児童生徒の行動を理解し、課題の改善を図る手法として、「教育相談的かわり」のできる教員を育成することを目的に、教職員研修センターの主催する「若手教員研修」のうち相談指導学級における体験研修を行った。(受講者22人、年間11回)

エ 電話相談

「やまびこ電話」の愛称で呼ばれる電話相談では、電話を通して訴えられる青少年に関する多種多様な課題や悩みについて、16人（令和6年3月31日現在）の相談員が共に悩み考えながら解決へ向け支援した。

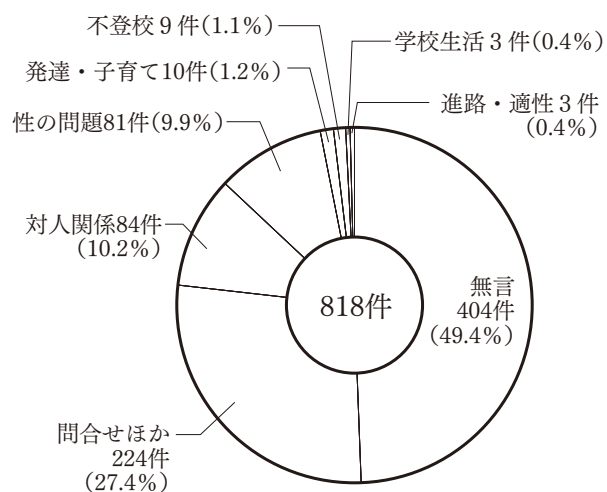
相談内容・対象者別内訳

(単位 件)

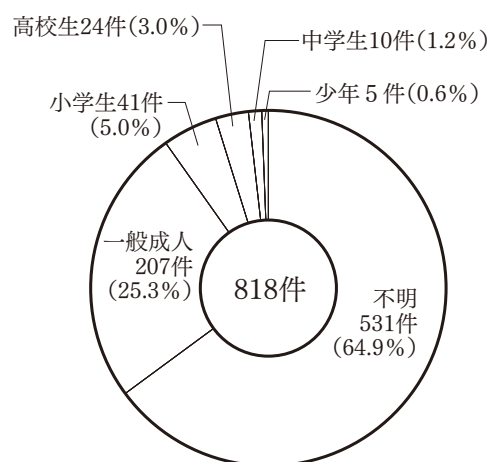
内容 \ 対象者	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	不明	計
非行								0
不登校		5	2	2				9
発達・子育て		4		1	1	4		10
性の問題		18	5	15	3	16	24	81
進路・適性			1			2		3
対人関係		1	1	3	1	66	12	84
学校生活		2		1				3
問合せほか		11	1	2		119	91	224
無言	—	—	—	—	—	—	404	404
計	0	41	10	24	5	207	531	818

※少年は20歳未満の大学（短大）生・専門学校生・有職少年・無職少年

内容別相談件数



対象者別相談件数



6 芸術・文化振興

市民による自主的な芸術・文化活動を支援し、その成果を発表する場として、市民の参画により「第50回沼津市芸術祭」を開催した。

部門名	開催日・会場	内 容
合 唱 祭	10.1 市民文化センター	参加団体 25団体（449人） 少年少女、高校、職場、婦人、一般による合唱の発表
芸術祭茶会	10.1 御用邸記念公園東附属邸	参加団体 3団体（51人） 茶道表千家、黄檗弘風流による茶席
書 道 展	10.4～10.9 プラサヴェルデ	出品総数 91点 書道の作品展示
写 真 展	10.6～10.10 市民文化センター	出品総数 92点 写真の作品展示
秋の舞踏会	10.8 市民文化センター	参加団体 3団体（97人） 各洋舞団体のフラメンコやモダンバレエ等の作品発表
ぬまづ文芸	10.10 入選者発表	出品総数 250点 随筆、詩、短歌、俳句、川柳の作品募集と作品集「ぬまづ文芸」の発行
美 術 展	10.13～10.16 プラサヴェルデ	出品総数 107点 洋画、日本画、水彩画、版画の作品展示
バレエ パフォーマンス	10.15 市民文化センター	参加団体 6団体（141人） 各バレエ団体による作品と合同作品の発表
沼津寄席	10.15 市立図書館	参加人数 10人 講談、マジックの披露
邦 楽 祭	10.22 市民文化センター	参加団体 13団体（142人） 箏、三味線、謡の披露
現代いけばな展	10.27～10.29 市民文化センター	出品総数 24点 自由な発想による超流派のいけばな展示
郷土ふれあい 太 鼓	10.29 市民文化センター	参加団体 5団体（47人） 「郷土ふれあい太鼓」と題した太鼓の演奏
音楽の広場	11.3 市民文化センター	参加団体 12団体（367人） 高校生を中心とした吹奏楽の演奏
クライネムジーク コンサート	11.4 市民文化センター	参加人数 23人 プロ・セミプロによるクラシック音楽の演奏
日本舞踊祭	11.5 市民文化センター	参加人数 13人 古典日本舞踊の披露
吟 詠 祭	11.5 市民文化センター	参加人数 26人 歌謡吟、独吟の上演
演 劇 祭	11.11 市民文化センター	参加人数 10人 作家「西村滋」にちなんだ朗読劇の上演
新 舞 踊 祭	11.12 市民文化センター	参加団体 10団体（75人） 各団体による新舞踊の披露

○5月に第41回ぬまづ茶会を沼津御用邸記念公園で開催し、茶道文化の普及を図った。

○山口源新人賞受賞者を講師に迎え、版画ワークショップを開催した。

7 文 化 財

郷土の文化遺産の保護・継承のため、文化財の調査・整理及び保存に努めるとともに、特に重要性が高い文化財に対しては、文化財保護審議会を3回開催し、文化財の保存及び活用に関する事項について調査・審議を行った。

埋蔵文化財発掘調査関係の主な業務は、中原遺跡埋蔵文化財発掘調査受託事業ほか8事業であった。

史跡等保全整備事業として、興国寺城跡の遺構確認調査（石垣調査）を実施し、整備基本計画の素案作成を進めるとともに、高尾山古墳の国史跡指定を見据え、有識者による整備委員会を設置し、保存活用計画・整備基本計画の策定準備等を行った。また、大瀬崎のビャクシン樹林の適切な保護を図るため、指定地内に管理用道路の設置を進めた。

さらに、文化財の価値や魅力を広く伝えるため、沼津市文化財保存活用地域計画策定に向け検討を進めたほか、19回の出前講座の実施や文化財まちあるきマップの作成、小中学校へのデジタルコンテンツの提供など、文化財活用推進事業を実施した。

8 社会教育施設

(1) 若山牧水記念館

公益社団法人沼津牧水会を指定管理者として、歌人若山牧水の業績の顕彰と沼津の文学風土を紹介することを目的に、文学資料の保存や調査・研究を行うとともに、講座・講演等を開催し、広く市民の教養・文化の向上に努めた。

ア 事 業

(ア) 講座・講演等

○「初心者のための短歌講座」126人、「牧水記念館短歌会」73人

4月～令和6年2月 参加者 合計199人 講師 永久保 英敏

(公益社団法人沼津牧水会理事)

○「中学生短歌コンクール」

募集期間 5月1日～7月31日

応募短歌 19校 1,438首 特選10首 入選短歌40首

○ 「短歌大会」

10月1日 講師 奥田 亡羊（「心の花」編集委員、第27回若山牧水賞受賞者）

応募短歌 103首 参加者63人

○ 「第36回 雛の歌会」

令和6年3月3日 講師 阿木津 英（「八雁」主宰）

応募短歌 85首 参加者53人

(イ) 調査・研究

牧水顕彰のための調査・研究を行い、関係資料の収集に努めるとともに、館報の作成に活用した。

(ウ) 若山牧水記念館館報の刊行

「沼津市若山牧水記念館」館報（年2回）を刊行し、市民への啓発を行った。

第71号（9月1日）

第72号（令和6年3月5日）

イ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	182 ^人	26 ^日	10	560 ^人	26 ^日
5	323	26	11	427	26
6	201	26	12	182	24
7	272	26	6.1	217	24
8	472	27	6.2	478	25
9	336	26	6.3	338	27

入館者数 3,988人

開館日数 309日

1日平均
入館者数 12.9人

(2) 歴史民俗資料館

郷土の歴史・民俗資料の収集、保管、調査・研究を行い、企画展や講座を開催し、市民文化の向上と発展に努めた。また、施設の老朽化等に伴う移転整備に向けた取り組みを進めた。

ア 歴史民俗資料館協議会

館の円滑な運営を図るため、委員6人による協議会を3回開催し、館の運営計画や展示計画、PR方法などについて協議した。

イ 事業

(ウ) 調査・研究活動として、民俗、古文書等の収蔵資料の整理を実施した。

(イ) 普及活動として、「資料館だより」（年4回）、「沼津市博物館紀要48」（明治史料館と

共同)を刊行した。

(ウ) 夏休み期間中の土・日・祝日、体験学習「昔の道具を使ってみよう」を開催した。(参加者33人)

(エ) 歴史民俗資料館の移転整備の基本方針となる「沼津市歴史民俗資料館移転整備基本構想」を策定し、基本構想に基づく「沼津市歴史民俗資料館移転整備基本計画」の策定に向け、基本計画策定委員会を1回開催した。

(オ) 旧内浦小学校に移転させた収蔵資料の保全環境を維持するため空調設備を設置したほか、原収蔵庫の解体工事を行った。

ウ 展 示

(ア) 常 設 展

1階展示室に「内浦湾の漁法と漁具」、2階展示室に「生活用具とものづくり」、「沼津の漁業」を展示した。

(イ) 企 画 展

市制100周年記念企画展「絵葉書で見る100年まえの沼津」を開催した。

(7月1日～9月24日)

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	1,565 ^人	25 ^日	10	2,234 ^人	26 ^日		
5	2,058	25	11	1,922	24	入 館 者 数	21,423人
6	2,159	25	12	1,067	23	開 館 日 数	296日
7	1,733	25	6.1	1,197	23	1 日 平 均	
8	2,094	26	6.2	1,821	24	入 館 者 数	72.4人
9	1,812	25	6.3	1,761	25		

(3) 明治史料館

江原素六及び沼津兵学校の資料を中心に常設展示を行い、地域の歴史資料の調査・収集・保存をした。また、企画展、講座開設、資料の整理・出版活動を通じ、文化の向上と発展に努めた。

ア 明治史料館協議会

館の円滑な運営を図るため、委員10人による協議会を2回開催し、運営及び事業計画などについて協議した。

イ 展 示

(ア) 常設展

3階北側は「江原素六」、南側は「沼津の歴史」、4階は「沼津兵学校」を展示した。

(イ) 企画展

○ 江原素六学習作品展「子どもたちの見た江原素六」（4月15日～5月14日）

○ 市制100周年記念特別展「写真にみる沼津のあゆみ」（7月1日～9月24日）

歴史講演会 市制100周年記念特別展の関連事業として講師を呼び、実施した。

（9月9日）参加者 63人

○ 館外展示 第20回明治史料館館蔵資料展「沼津まちなか古写真展」

（9月1日～28日）

○ 「地域の歴史シリーズ4 おおひら」（12月9日～令和6年2月25日）

ウ 教育普及事業

(ア) そろくの日

5月14日、江原素六の功績に対し感謝と理解を深めるため、房楊枝づくり体験、スタンプラリー、紙芝居「江原素六物語」などのイベントを開催した。

(イ) 子ども向け歴史学習企画

「謎解き！ 沼津歴史探偵～100年前の沼津へタイムスリップ～」

夏休み期間中（7月22日～8月24日）、市制100周年記念特別展の展示を題材とした謎解きゲームを沼津の歴史について理解を深めるために実施した。

(ウ) 高校生のための一日学芸員体験講座

8月3日、「学芸員」という仕事を体験することによって、高校生が歴史や博物館などに対する興味を持つとともに、進路を決める際の参考になるよう開催した。

(エ) 平和を考える戦争史跡めぐり

8月10日・11日、小学生とその保護者を対象に、地域の歴史学習の場を提供した。

(オ) 博物館実習生の受入れ

8月22日～9月2日、学芸員資格取得のための博物館実習生として大学生2人を受け入れた。

(カ) 古文書解読入門講座

9・10月土曜日（計5回）開催。古文書を初めて読む市民を対象に、くずし字などの解読力を養う講座を開催した。

(キ) 中学生職業体験

11月2日、市内の中学生3人を対象に、労働の実態を学んだり働く人と接したりすることを目的として実施した。

(ク) 古文書等整理実践講座

毎月第3土曜日（4月・9月を除く）を開催日とし、年間10回開催した。館所蔵の資料を実際に整理・保存する方法を学び、また古文書資料を翻刻して研究・展示等に役立てる講座を開催した。

(ケ) ギャラリートーク

毎月第2土曜日、年間で10回開催し、職員が参加者と対話しながら展示の解説をした。

(コ) 学校・団体見学受入

通年、学生を授業の一環として受け入れた。

小学校5校 401人、中学校1校 316人、高等学校1校 311人

(カ) 講師派遣

10月・11月、「江原素六と沼津兵学校」と「沼津の歴史、西洋医学と沼津病院等について」をテーマとし、講師として職員を2回派遣した。

(シ) 戦争体験を記録する会

年間6回開催した。

(ス) 出版活動

館報である「明治史料館通信」（通巻153～156号・年4回）を刊行し、博物館活動への理解向上を図り、また、歴史民俗資料館と共同で「沼津市博物館紀要」48号を刊行した。

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	217 ^人	25 ^日	10	1,360 ^人	17 ^日		
5	468	25	11	234	11	入館者数	5,836人
6	178	13	12	246	16	開館日数	249日
7	632	25	6.1	357	23	1日平均	23.4人
8	938	27	6.2	450	22	入館者数	
9	411	21	6.3	345	24		

(4) 戸田造船郷土資料博物館

幕末に日本に來航して駿河湾で沈没したロシアの軍艦ディアナ号、その代船として建造されたヘダ号関係の資料、戸田の漁業や廻船業などの郷土資料を展示・収集した。

ア 戸田造船郷土資料博物館協議会

館の運営の円滑化を図るために、委員6人からなる協議会を3回開催し、館の展示計画や広報活動、資料収集活動のあり方について協議した。

イ 事業

博物館だよりの発行

博物館への関心を高め、博物館の活動について住民に知らせるための博物館だよりを発行し、戸田地区内回覧及び各窓口事務所等に配布した。

ウ 展示

大名びな展（4月1日～6月4日）

戸田の学校教育展（6月5日～10月31日）

戸田の神社とまつり展（11月2日～令和6年1月30日）

戸田から見た四季の富士山写真展（令和6年2月1日～2月29日）

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数		
4	552 ^人	26 ^日	10	568 ^人	26 ^日		
5	891	27	11	542	25	入館者数	7,675人
6	321	26	12	456	24	開館日数	308日
7	650	26	6.1	674	25	1日平均	24.9人
8	870	27	6.2	718	24	入館者数	
9	561	25	6.3	872	27		

(5) 庄司美術館（モン ミュゼ沼津）

NPO法人レザミ・デ・ザールを指定管理者として、所蔵する山口源や前田千寸の作品による常設展や月替わりの企画展を行い、市民に美術鑑賞の場を提供した。

ア 庄司美術館運営委員会

美術館の適正な運営を図るため、委員7人による運営委員会を2回開催し、運営及び展示計画などについて協議した。

イ 展 示

期 日	1 階 展 示 室	2 階 展 示 室
3.4～4.9	坂部隆芳作品展	所蔵作品展 (山口源・前田千寸)
4.15～5.20	十時孝好作品展	
6.10～7.9	田邊和正作品展	
7.15～8.27	あしざわまさひと作品展	
9.2～9.30	渡辺美津代作品展	
10.7～11.17	鈴木紀代子作品展	
11.25～12.23	本田照男作品展	
6.1.4～1.28	寄贈作品展	
6.2.3～2.12	山口源新人賞受賞作品展（前期）	
6.2.16～2.25	山口源新人賞受賞作品展（中期）	
6.2.29～3.9	山口源新人賞受賞作品展（後期）	
6.3.16～3.31	結城泰介作品展	

ウ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数						
4	358 ^人	22 ^日	10	419 ^人	21 ^日	入 館 者 数	4,699人				
5	399	17	11	288	20			開 館 日 数	252日		
6	365	18	12	511	21					1 日 平 均 入 館 者 数	18.6人
7	438	22	6.1	282	22						
8	825	24	6.2	248	19						
9	346	25	6.3	220	21						

(6) 芹沢光治良記念館

本市生まれの作家芹沢光治良の関係資料を整理・収集・保存し、企画展示を行うとともに、2階展示室を市民ギャラリーとして沼津の文化に関する企画展示を一般公募するなど、市民文化の向上と発展に努めた。

ア 芹沢光治良記念館懇話会

館の円滑な運営を図るため、委員5人による懇話会を2回開催し、運営方法及び事業計画などについて参考意見を聴取した。

イ 事 業

(ア) 資料整理・保存

芹沢光治良関連資料のデータベース化と適正保存を進めるために、資料目録の点検、補填など、資料の整理及び保存の処理を行った。

(イ) 各種広報活動

当館周知のためのポスター及びチラシ等を作成し、市内小中学校等の教育機関、各自治会及び主要文化施設に配布した。また各イベント会場へ出向き、同様に配布した。

(ウ) 教育普及

企画展展示説明会や出前講座等を実施した。

事業名	内 容	期 日	備 考
出前講座	(特別講座) 沼津ゆかりの文学者たちについて	6.3.9	1階展示室 参加者18人
文学散歩	沼津ゆかりの文学散歩	5.20	2コースで実施 参加者計24人
	沼津ゆかりの文学バスツアー	10.21	参加者33人
展示説明会	企画展光治良の欧州体験	5.4	全2回実施 参加者21人
	企画展沼津ゆかりの文学者たち	7.1 8.20 6.2.23	全8回実施 参加者計29人
講演会	沼津ゆかりの文学講演会	7.22	講師 鈴木英治氏 秋山香乃氏 参加者85人

ウ 展 示

企画展

- 光治良の欧州体験（第2回）（4月1日～5月31日）
- 沼津ゆかりの文学者たち（第1回）（6月15日～11月30日）
- 沼津ゆかりの文学者たち（第2回）（12月15日～令和6年3月31日）

エ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	250 ^人	26 ^日	10	818 ^人	26 ^日
5	439	26	11	311	25
6	120	14	12	167	12
7	405	26	6.1	180	24
8	435	27	6.2	399	25
9	310	26	6.3	435	26

入館者数 4,269人
 開館日数 283日
 1日平均入館者数 15.1人

(7) 重要文化財松城家住宅

戸田観光協会を指定管理者とし、松城家住宅の歴史的、文化的価値等を紹介し、広く市民の教養及び文化の向上に努めた。

ア 事業

指定管理者の自主事業として、以下の事業を行った。

昭和の松城家写真展（4月1日～8月30日）

静岡県民の日企画展（8月21日）

開館1周年記念企画展（11月3日）

重要文化財宿泊支援高付加価値化事業（12月3日～令和6年2月29日）

重要文化財防火デー（令和6年1月26日）

富士山の日企画展（令和6年2月23日）

イ 入館者数と開館日数

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	179 ^人	26 ^日	10	234 ^人	27 ^日
5	221	27	11	256	25
6	121	26	12	222	28
7	157	27	6.1	294	28
8	250	26	6.2	284	25
9	135	25	6.3	190	27

入館者数 2,543人
 開館日数 317日
 1日平均入館者数 8.0人

9 社会体育

生涯スポーツの振興のため、各種スポーツ大会等の開催のほか、小・中学校の体育施設の開放を推進するとともに、NPO法人沼津市スポーツ協会、沼津市スポーツ推進委員連絡協議会、同各地区体育委員会、同スポーツ少年団、県市町対抗駅伝競走大会沼津市実行委員会の活動助成に努めた。

また、本年度末に計画期間が終了した沼津市スポーツ推進基本計画について、市民のスポーツ振興及びスポーツ交流の推進を図るための次期計画を策定した。

(1) スポーツ大会等開催事業

名 称	実施時期	概 要
第64回沼津市町別ソフトボール大会	4.9・23 5.28	30歳以上の男性及び高校生以下を除く女性が、ソフトボールを楽しむ中で、体力づくりと健康の増進を図り、試合を通して相互の親睦を深めた。(参加47チーム)
第57回沼津市町別バレーボール大会	6.11	18歳以上の女性がバレーボールを楽しむ中で体力づくりと健康の増進を図り、試合を通して相互の親睦を深めた。(参加18チーム)
第68回千本浜ファミリーマラソン大会	11.12	市民の健康増進と体力づくりを目的に、千本浜防潮堤を利用して、誰でも気軽に参加できるマラソン大会を実施した。(参加者265人)
第70回沼津市駅伝競走大会	6.1.28	職場スポーツの普及と青少年の体力増強を図ることを目的に、愛鷹広域公園周回コースにおいて実施した。(参加33チーム)
第77回沼津市スポーツ祭	通 年	各種スポーツの普及と底辺拡大を図るため、スポーツ協会の協力のもと本市最大のスポーツ大会を実施した。(陸上競技ほか全32種目)

(2) スポーツ指導者バンク事業

市民のスポーツ振興と健康増進を図るため、自主的にスポーツを通じた健康づくり活動に取り組む団体等に対し、スポーツ指導者を派遣したほか、指導者の資質向上に取り組んだ。

○登録指導者数 66人

(3) トップアスリート教室開催事業

本市のスポーツ振興の基本理念の一つである「みるスポーツ」を推進するため、本市にゆかりのあるトップアスリートによる教室を開催し、子ども達にトップレベルのプレーを間近に見せることで、スポーツをする楽しみにつなげ競技力向上や才能の発掘を図った。

(4) 学校体育施設利用推進事業

地域スポーツの振興を図るため、小・中学校の体育施設を地域住民のスポーツの場として開放し、市民の健康の維持・増進と体力づくりを図った。

学校体育施設利用状況

		運動場（昼間）	運動場（夜間）	体育館（昼間）	体育館（夜間）
小学校	日数	1,444 日	1,731	1,397	4,461
	人数	47,106 人	47,800	36,031	84,737
中学校	日数	165 日	943	67	3,773
	人数	4,619 人	14,333	1,686	71,951
小中 一貫 学校	日数	6 日	—	43	554
	人数	117 人	—	1,023	8,061
計	日数	1,615 日	2,674	1,507	8,788
	人数	51,842 人	62,133	38,740	164,749

(5) 屋外運動場夜間照明施設整備事業

地域スポーツの振興を図るため、小・中学校等に設置してある夜間照明施設の点検及び修繕を行った。

(6) スポーツ広場整備事業

地域住民の健康・体力づくりのため、遊休地等を借り上げた自治会に対し、グラウンド砂の補充及び防球ネット更新の補助を行った。

(7) 地域体力づくり教室等開催事業

身近な施設でたくさんの仲間とふれあいながら、健康・体力づくりができるように、また、運動をはじめのきっかけづくりとなるように各種の教室や講座を地区センターなどを会場に開催した。

ア 地域体力づくり教室

教室名		会場	定員 (各期)	期・回数	参加 人員	対象・運動レベル
女性体操教室	Aコース	原地区センター	45	3期延べ28回	976	18歳以上 体力維持・向上を目的とした中級レベル
	Bコース		45	3期延べ28回	612	18歳以上 初心者にも手軽にできる初級レベル
アップ・UP 体操教室	水曜日コース		80	3期延べ30回	987	健康増進を目的とした初級～中級レベル
	木曜日コース		80	3期延べ30回	949	運動不足解消を目的とした初級レベル
アップ・UP体操教室		大平地区センター	30	3期延べ30回	474	運動不足解消を目的とした初級レベル
男性健康づくり教室			30	3期延べ30回	415	18歳以上 運動不足解消を目的とした初級レベル
アップ・UP体操教室		静浦地区センター	40	3期延べ30回	487	運動不足解消を目的とした初級レベル
アップ・UP体操教室		浮島地区センター	40	3期延べ29回	482	運動不足解消を目的とした初級レベル
アクアウォーキング教室		戸田B&G海洋センター	30	1期延べ7回	58	体力維持を目的とした初級～中級レベル
アップ・UP体操教室			50	3期延べ30回	264	運動不足解消を目的とした初級レベル
土曜水泳教室			30	1期延べ10回	209	年長～小学生
夏休み短期 水泳教室	前期 コース		Aクラス	30	1期延べ5回	40
		Bクラス	30	1期延べ5回	79	
	中期 コース	Aクラス	30	1期延べ5回	62	
		Bクラス	30	1期延べ5回	86	
	後期 コース	Aクラス	30	1期延べ5回	86	
		Bクラス	30	1期延べ5回	98	
アップ・UP体操教室		愛鷹地区センター	40	3期延べ30回	568	運動不足解消を目的とした初級レベル
アップ・UP 体操教室	水曜日コース	第三地区センター	45	3期延べ30回	654	運動不足解消を目的とした初級レベル
	木曜日コース		45	3期延べ30回	1,065	健康増進を目的とした初級～中級レベル
柔・酸・筋教室		片浜地区センター	30	3期延べ30回	204	体力維持・向上を目的とした中級レベル
男性健康づくり教室			40	3期延べ30回	388	18歳以上 運動不足解消を目的とした初級レベル
柔・酸・筋教室		サンウェルぬまづ	30	3期延べ30回	451	体力維持・向上を目的とした中級レベル
脚力改善教室			30	3期延べ30回	898	健康増進を目的とした初級～中級レベル
からだとのえ運動教室			30	3期延べ30回	733	運動不足解消を目的とした初級レベル
からだづくり教室			30	3期延べ30回	372	体力維持・向上を目的とした中級レベル

教室名		会場	定員 (各期)	期・回数	参加 人員	対象・運動レベル
からだづくり教室		第五地区センター	40	3期延べ30回	917	体力維持・向上を目的とした中級レベル
アップ・UP体操教室			40	3期延べ30回	874	運動不足解消を目的とした初級レベル
たのしいヨガ教室			35	3期延べ30回	803	初心者にも手軽にできる初級レベル
からだづくり教室		門池地区センター	40	3期延べ30回	516	体力維持・向上を目的とした中級レベル
アップ・UP 体操教室	Aコース		40	3期延べ30回	357	運動不足解消を目的とした初級レベル
	Bコース		40	3期延べ30回	566	健康増進を目的とした初級～中級レベル
からだづくり教室		今沢地区センター	30	3期延べ29回	415	体力維持・向上を目的とした中級レベル
アップ・UP 体操教室	水曜日コース		30	3期延べ29回	485	運動不足解消を目的とした初級レベル
	木曜日コース		30	3期延べ30回	547	健康増進を目的とした初級～中級レベル
アップ・UP体操教室		大岡地区センター	40	3期延べ29回	786	運動不足解消を目的とした初級レベル
からだづくり教室			30	3期延べ29回	149	体力維持・向上を目的とした中級レベル
からだどとのえ運動教室		内浦地区センター	40	3期延べ30回	880	運動不足解消を目的とした初級レベル
たのしいヨガ教室		第二地区センター	30	3期延べ30回	660	初心者にも手軽にできる初級レベル
柔・酸・筋教室			20	3期延べ30回	347	体力維持・向上を目的とした中級レベル
からだづくり教室		第一地区センター	25	3期延べ29回	573	体力維持・向上を目的とした中級レベル
柔・酸・筋教室		金岡地区センター	30	3期延べ30回	455	体力維持・向上を目的とした中級レベル
アップ・UP体操教室			30	3期延べ29回	786	運動不足解消を目的とした初級レベル
計					21,813	

イ 短期講座

講座名		会場	定員	開催日	参加人員	対象者
4月	バレトン	第一地区センター	人	4.12	11 ^人	18歳以上
	骨盤ストレッチ	片浜地区センター		4.13	14	
	腰痛・肩こり改善ストレッチ&トレーニング	第三地区センター		4.19	13	
	ストレッチ&コアストレッチウォーキング	門池地区センター		4.25	12	
	ピラティス	第五地区センター		4.28	18	
6月	まんてん椅子ヨガ	大岡地区センター	各24	6.2	15	
	リフレッシュヨガ	原地区センター		6.9	17	
	DISCO WORLD	今沢地区センター		6.15	13	
	姿勢改善で代謝UP!	金岡地区センター		6.24	16	
	美尻トレーニング	第二地区センター		6.29	19	
7・8月	懐メロリズム運動	金岡地区センター	各24	7.19・26・8.2	59	
	エンジョイエアロビクス	大岡地区センター		7.20・27・8.3	30	
	脚カアアップウォーキング	戸田B&G海洋センター		7.21・28・8.4	10	
	筋膜ケアでコンディショニング	門池地区センター		7.25・8.1・8	65	
	パフォーマンスアップ	第三地区センター		8.9・16・23	63	
	からだバランス整え	今沢地区センター		8.10・17・24	28	
	リラックスボディメイクヨガ	第五地区センター		8.15・22・29	16	
10月	初めての体幹ヨガ	愛鷹地区センター	各24	10.5	13	
	慢性痛・疲労回復ストレッチ&トレーニング	第四地区センター		10.13	20	
	ひめトレエクササイズ	大岡地区センター		10.17	17	
	美尻トレーニング	第一地区センター		10.27	16	
	ピラティス	原地区センター		10.31	18	
11・12月	セラバンド筋トレ	浮島地区センター	各24	11.15・22	7	
	体軸トレーニング	第四地区センター		11.21・28	35	
	フローピラティス	第五地区センター		11.29・12.6	48	
	J-popエクササイズ	門池地区センター		11.30・12.7	41	
	ぽっこりお腹を解消しながら姿勢改善	金岡地区センター		12.1・8	47	
	ボディメイク&ストレッチ	内浦地区センター		12.5・12	33	
	DISCO WORLD	原地区センター		50	12.17・24	78

	講座名	会場	定員	開催日	参加人員	対象者
2 ・ 3 月	健康増進太極拳	門池地区センター	各24	6.2.17	10	18歳以上
	セルフボディメンテナンス	第五地区センター		6.2.20	22	
	美尻トレーニング	原地区センター		6.2.22	17	
	ひめトレ&ストレッチローラー	金岡地区センター		6.2.27	20	
	リフレッシュエアロ&ストレッチ	第二地区センター		6.2.29	23	
	痩せやすい身体づくりと姿勢改善	第三地区センター		6.3.2	18	
	股関節柔らかストレッチ	第一地区センター		6.3.5	20	
	リフレッシュヨガ	原地区センター		6.3.7	16	
	自宅でできる健康運動	第二地区センター		6.3.8	4	
	ピラティス	門池地区センター		6.3.8	22	
	コンディショニングYOGA	金岡地区センター		6.3.12	20	
	美温活リンパストレッチ	第五地区センター		6.3.14	33	
計					1,017	

(8) スポーツ施設マネジメント事業

スポーツ施設の再編を図るため、香陵アリーナ（総合体育館）の開設に伴い、市民体育館及び旧静浦東小学校屋内運動場の解体工事を行った。

また、戸田B&G海洋センターの照明LED化やトイレの洋式化を行ったほか、近年若者の注目を集めるストリートスポーツに触れる機会を提供し、ニーズの把握と遊休地の活用を図るため、本年12月にストリートスポーツパークを整備した。

(9) 沼津市民屋内温水プール利用料金助成事業

屋内温水プールの廃止に伴い、プールを活用した市民のスポーツをする意識及び機会の維持を目的として、市が指定した屋内温水プールを利用した市民に対し、利用料金の一部を助成した。

第5節 自然体験施設

1 ゆめとびら舟山

自然体験施設として、青少年の健全育成を図るための集団宿泊生活や野外活動など年間利用者数は27団体延べ1,141人であった。

(1) ゆめとびら舟山運営審議会

沼津市校長会、沼津市スポーツ少年団、戸田観光協会などの7人により構成され、施設の利用促進、今後の活用の方策などについて審議した。

(2) 利用状況

ア 月別

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	6.1	6.2	6.3	計
団体数	3	5	3	5		2	2	7					27 ^{団体}
実人員	15	130	89	109		60	80	77					560 ^人
延べ人数	15	310	178	265		120	127	126					1,141 ^人
開所日数	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	25	27	309 ^日
利用率	0.6	11.9	6.8	10.2	0.0	4.6	4.9	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7 [%]

$$\text{※利用率} = \frac{\text{延べ人数}}{\text{宿泊定員 (100人)} \times \text{開所日数}} \times 100$$

イ 団体別

団体 区分	幼・保	小学校	中学校	高等学校 各種学校等	スポーツ 少年団等	その他	計
団体数			3		6	18	27 ^{団体}
実人員			145		182	233	560 ^人
延べ人数			325		416	400	1,141 ^人

第6節 体 育 施 設

1 香陵アリーナ（総合体育館）

香陵公園周辺整備PFI事業において本年3月に整備した香陵アリーナの設計・建設・維持管理・運営について、沼津NEXT株式会社を指定管理者として令和19年度まで実施する。

利用状況

(単位 人)

施 設 名	個人利用者	団体利用者	計
ス ポ ー ツ ア リ ー ナ	809	88,087	88,896
多 目 的 ア リ ー ナ	271	31,479	31,750
武 道 場	455	31,862	32,317
弓 道 場	6,355	3,953	10,308
卓 球 場	15,515		15,515
ト レ ー ニ ン グ 室	97,487		97,487
多 目 的 ス タ ジ オ		11,045	11,045
多 目 的 室	325	3,090	3,415
ランニングコース	1,657		1,657
大 会 本 部 室		1,689	1,689
選 手 控 室 1		606	606
選 手 控 室 2		309	309
合 計	122,874	172,120	294,994

2 戸田B & G海洋センター

戸田地区におけるスポーツ・レクリエーションの拠点として、また、地域に密着した親しまれる施設として利用に供した。

(1) 年度別利用状況

(単位 人)

年度	プー ル		体 育 室	計
	個人利用者	団体利用者	団体利用者	
5	1,876	834	4,886	7,596
4	1,979	743	5,497	8,219

(2) 目的・種目別利用状況

区 分	目 的 ・ 種 目	利用回数	利用者数
個 人 利 用	プール	— 回	1,876 人
団 体 利 用	プール	32	834
	バレーボール	19	490
	バドミントン	102	753
	バスケットボール	90	959
	卓 球	90	539
	柔 道	104	1,233
	そ の 他 (ダンス・カローリング等)	63	912
	小 計	500	5,720
合 計			7,596

3 屋外施設の年度別利用状況

区分 年度	市営野球場		大岡公園内運動場		西部市民運動場		中瀬市民運動場	
5	260 ^回	10,419 ^人	594 ^回	21,814 ^人	455 ^回	7,555 ^人	335 ^回	4,822 ^人
4	274	10,857	625	22,657	506	8,118	421	6,132

区分 年度	愛鷹運動公園テニスコート (12面)	大岡公園テニスコート (4面)	戸田テニスコート (2面)
5	61,075 ^人	29,124 ^人	163 ^人
4	59,032	28,723	219

第7節 図 書 館

1 市立図書館協議会

図書館の円滑な運営を図るため、委員9人による協議会を2回開催し、運営や図書館サービスなどについて協議した。

2 資料整備

利用者が求める様々な情報に対応するため、一般書、児童書、参考調査図書、電子書籍及び視聴覚資料を整備した。

(1) 図書資料

区 分		購 入 数	金 額	蔵 書 数
本 館	一般	6,781 ^冊	18,821,867 ^円	380,205 ^冊
	児童	1,880	3,371,338	68,413
戸 田	一般	405	703,515	25,106
	児童	238	436,568	12,058
自 動 車 文 庫	一般	274	394,883	3,698
	児童	99	151,525	1,351
地 区 セ ン タ ー	一般	1,056	1,811,583	31,013
	児童	302	524,095	39,039
計	一般	8,516	21,731,848	440,022
	児童	2,519	4,483,526	120,861

(2) 電子書籍資料

区 分		購 入 数	金 額	蔵 書 数
ぬまづ電子図書館	一般	285 ^点	801,100 ^円	12,729 ^点
	児童	226	789,900	977
計		511	1,591,000	13,706

(3) 視聴覚資料

区 分	購 入 数	金 額	所 蔵 数
本 館	232 ^点	1,300,466 ^円	42,090 ^点
戸 田	15	144,045	1,235
計	247	1,444,511	43,325

3 館内・館外業務

本館及び戸田図書館では、一般書、児童書、視聴覚資料、郷土資料、新聞、雑誌等の閲覧・貸出しや、予約・リクエストサービス、レファレンスサービス、コピーサービスなどを行うとともに、本館でのWi-Fiサービスを提供した。また、市街地周辺部の利用者に対して自動車文庫や地区センターの図書室において貸出しを行った。

(1) 入館者数

区 分	年 度	開館日数	入 館 者 数		
			年 間	1 月平均	1 日平均
本 館	5	296 ^日	237,997 ^人	19,833 ^人	804 ^人
	4	294	244,537	20,378	832
戸 田	5	285	5,495	458	19
	4	284	5,885	490	21

(2) 貸出利用者数、貸出数

(視聴覚資料は館内ブース利用も含む)

区 分	年 度	利用者数	貸 出 数		
			図書資料	視聴覚資料	計
本 館	5	218,957 ^人	601,132 ^冊	67,521 ^点	668,653 ^{冊・点}
	4	222,522	612,452	68,158	680,610
戸 田	5	2,273	5,316	383	5,699
	4	2,674	6,404	484	6,888
自 動 車 文 庫	5	3,126	13,177	—	13,177
	4	3,706	14,462	—	14,462
地 区 セ ン タ ー	5	16,034	46,266	—	46,266
	4	15,029	45,636	—	45,636
計	5	240,390	665,891	67,904	733,795
	4	243,931	678,954	68,642	747,596

(3) ぬまづ電子図書館

年 度	開館日数	貸 出 数	
		年 間	1 日平均
5	365 ^日	21,805 ^点	60 ^点
4	365	25,162	69

※令和3年1月29日に開館

(4) 自動車文庫

市内45か所のステーション及び小学校2校を巡回して、市街地周辺部の利用者及び小学生への図書貸出しを行った。

年 度	出動日数	貸 出 数		
		年 間	1 月平均	1 日平均
5	179 ^日	13,177 ^冊	1,098 ^冊	74 ^冊
4	184	14,462	1,205	79

(5) 郵送・宅配・団体貸出

図書館に来館することが困難な利用者（身体障がい者等）で登録された155人を対象に郵送や宅配貸出しを行った。また、沼津聴覚特別支援学校等に図書の団体貸出しを行った。

年 度	郵 送		宅 配		団 体	
	利用件数	貸 出 数	利用件数	貸 出 数	利用者数	貸 出 数
5	10 ^件	29 ^冊	104 ^件	532 ^冊	29 ^{団体}	14,410 ^冊
4	16	42	111	588	31	16,407

(6) レファレンスサービス

職員が利用者の求める資料の検索や情報の収集を支援する、レファレンスサービスを行った。

(単位 件)

年 度	窓 口	電 話	文 書	E-mail	計
5	6,592	157		9	6,758
4	8,750	126		7	8,883

(7) 相 互 貸 借

各図書館の間で相互に図書資料の貸借を行い、利用者の要求に応じている。資料の貸借は、県立中央図書館の協力車に依頼、郵送、宅配便の方法から選択して行った。

ア 貸 出

年 度	県内図書館		県外図書館		計	
	件 数	貸出数	件 数	貸出数	件 数	貸出数
5	599 ^件	940 ^冊	19 ^件	26 ^冊	618 ^件	966 ^冊
4	671	1,002	12	14	683	1,016

イ 借 受

年 度	県内図書館		県外図書館		計	
	件 数	借受数	件 数	借受数	件 数	借受数
5	978 ^件	1,659 ^冊	51 ^件	95 ^冊	1,029 ^件	1,754 ^冊
4	939	1,568	43	75	982	1,643

(8) 静岡県東部地域図書館間の相互利用

県東部地域の公共図書館相互利用協定により、各市町の利用者は、直接、協定先の図書館から図書資料の貸出しを受けることができる。

協定先は、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、南伊豆町、松崎町、函南町、清水町、長泉町及び小山町の10市6町で、令和6年3月31日現在の登録者数は、21,143人である。

4 自主事業

(1) 図書館講座等

図書館活動の一環として、図書館資料の提供と関連をもたせ、資料の活用を促進し、市民の読書活動推進の一助となるよう講座等を開催した。

ア 子どもの本を知る講座

月日	内 容	講 師
6.18	「かがく絵本を楽しもう」 ～あそびだっかがくだよ～	静岡県子ども読書アドバイザー 藤岡 祐子

参加者 26人 会場 第1・2講座室 開催時間 13:30～15:00

イ 夏休み子ども講座

月日	内 容	講 師
7.28	「私たちのくらしと地図」	国土地理院 中部地方測量部職員 永田 勝裕

参加者 41人 会場 第1・2講座室 開催時間 13:30～15:00

ウ 読書週間講演会

月日	内 容	講 師
11.5	「300万部のベストセラー作家が語る 江戸のあれこれ」	時代小説家 鈴木 英治

参加者 122人 会場 視聴覚ホール 開催時間 13:30～15:00

エ 読みメン講座

月 日	内 容	講 師
6.2.4	「エンタメMC高橋裕一郎の喋りの基礎から学ぶ、心に響く、読み聞かせ講座」	フリーランスMC 高橋裕一郎

参加者 24人 会場 第1・2講座室 開催時間 10:00~12:00

(2) 展 示 事 業

期 間	名 称	内 容
4.13~8.3	「本でたどる沼津の100年」	本市が誕生した大正から現代までの出来事を、蔵書とともに当時の地図や写真等、時代を追って展示
7.1~6.2.29	「沼津の学校と教科書のあゆみ展」	市制100周年を記念して、市内の学校の沿革や校歌、校区内の名所等を紹介するとともに、明治・大正・昭和の復刻版教科書や現在の教科書等を展示
9.12~10.15	秋の企画展 「0から100まで」	市制100周年に因み、0から100までの数字をテーマにした絵本や児童書を展示
10.19~11.21	読書週間企画展 「時代小説と江戸の町」	講演会講師である鈴木英治氏の多彩な作品を展示したほか、江戸時代を舞台とした小説を、江戸の暮らし・文化・街並み等とともに展示
6.2.16~3.17	「すげえーら！われらの富士山」写真展	2月23日の「富士山の日」に因み、富士山の四季折々を捉えた写真を展示

(3) その 他 事 業

ア 図書館ブックリサイクルフェア

図書館開館30周年を記念して、図書館で役目を終えた本のリサイクルフェアを開催した。

開催日 4月27日~29日

イ 「子ども読書活動推進」関連事業

(ア) 講 座 「絵本作家 いわいとしおさんとつくろう！100かいだてのいえ」

開催日 5月14日

講 師 絵本作家 いわいとしお

参加者 76人

(イ) 夏休みわくわく図書館

人形劇や読み聞かせ、身近な材料を使った工作など、本に関連したさまざまな催しを開催した。

開催日 8月3日 参加者263人

ウ 夏休み図書館子ども探検隊

小学生を対象に、図書館の仕事を体験することによって、図書館のしくみや本の調べ方などを学び、将来の利用者を育てることを目的として開催した。

開催日 本館 7月25・26・27・28日、8月1・2・3・4日

戸田図書館 7月26・27・28日、8月3・4日

参加者 本館 45人 戸田図書館 10人

エ 上映会

視聴覚資料の有効利用を図る観点から、夏休み及び春休みに上映会を開催した。

本館 上映回数 6回 参加者 407人

戸田図書館 上映回数 1回 参加者 10人

オ ふれあいフェスティバル

ボランティアの協力を得て、幼児・小学生を対象とした絵本の読み聞かせや工作遊びなどのさまざまな催しを開催した。

開催日 10月14日 参加者 216人

カ ビブリオバトル

(ア) ビブリオバトル小中学生大会 in 沼津2023

学校と連携し、小中学生を対象としたビブリオバトルを開催した。

開催日 12月10日

参加者 動画による予選 小学生の部 39人 中学生の部 29人

発表者 小学生の部 8人 中学生の部 6人

観戦者 小学生の部 77人 中学生の部 41人

(イ) 大人のビブリオバトル

高校生以上を対象としたビブリオバトルを開催した。

開催日 令和6年3月8日

参加者 発表者 5人、観戦者 24人

5 図書館情報ネットワーク事業

本館と戸田図書館及び市内16か所の地区センターをコンピュータ回線でネットワーク化することで、図書館の分館的な機能を整備している。また、パソコンや携帯電話から図書館資料の検索や予約が可能な図書館ホームページ、SNSによる情報提供を行うことで、利用者の利便向上と図書館資料の利用促進を図った。

ホームページアクセス件数	331,820件
オンライン予約件数	32,019件
ぬまづ電子図書館予約件数	4,248件

第8節 市民文化センター

1 市民文化センター

公益財団法人沼津市振興公社を指定管理者として、文化芸術の鑑賞・交流の場として利用者の立場に立った利用しやすい施設となるように努めた。

(1) 市民文化センター運営審議会

市民文化センターの円滑な運営を図るため、委員7人による審議会を2回開催し、施設の利用促進などについて審議した。

(2) 利用状況

区 分	可 能		使 用					利用人数
	日 数	回 数	日 数	率	件 数	回 数	率	
大 ホール	312 ^日	936 ^回	182 ^日	58.3 [%]	197 ^件	446 ^回	47.6 [%]	72,850 ^人
小 ホール	303	909	184	60.7	216	422	46.4	31,341
ホールの計	615	1,845	366	59.5	413	868	47.0	104,191
大会議室	336	1,008	173	51.5	192	314	31.2	6,445
第1練習室	339	1,017	96	28.3	102	190	18.7	3,029
第2練習室	339	1,017	97	28.6	104	151	14.8	3,636
第3練習室	336	1,008	127	37.8	152	231	22.9	3,894
第1会議室	339	1,017	82	24.2	84	142	14.0	1,097
第2会議室	—	—	—	—	—	—	—	—
第3会議室	339	1,017	119	35.1	130	192	18.9	1,597
第4会議室	339	1,017	117	34.5	122	172	16.9	1,565
第5会議室	339	1,017	171	50.4	190	254	25.0	2,524
第6会議室	339	1,017	118	34.8	130	192	18.9	751
第7会議室	339	1,017	26	7.7	26	50	4.9	255
特別会議室	339	1,017	27	8.0	27	61	6.0	126
会議室計	3,723	11,169	1,153	31.0	1,259	1,949	17.5	24,919
1リハーサル室	337	1,011	218	64.7	276	387	38.3	4,272
2リハーサル室	339	1,017	177	52.2	194	323	31.8	2,668
リハーサル室計	676	2,028	395	58.4	470	710	35.0	6,940
展示室	339	339	82	24.2	82	82	24.2	6,535
計	5,353	15,381	1,996	37.3	2,224	3,609	23.5	142,585

※第2会議室は漏水による天井材の交換が必要であったため、使用を中止していた。